

科目名 (科目番号)	病 理 学 (時間割参照)	教員名	大越 教夫 本間 光彦	学科等	診療放射線	必修	履修年次	2
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
				授業形態	講義	オフィスアワー	各担当教員シラバス参照	
授業概要	生体に発生する疾患がどのような原因によって生じ、どのような形態的变化を示すか、これらの疾患や病質がどのような経過を経て治癒あるいは悪化するかについて学習する。いわば人間の疾病理解の基礎となる病理発症、進展転帰、病因等、疾患概念の本質を学習する。具体的には組織障害（退行性変化）、再生と修復（進行性変化）、循環障害、炎症論、免疫病理、腫瘍病理の基礎的分野に加え、臨床に応用できるよう臓器別各論についても学習する。							
目的・目標	目的：病理学の基本である、組織障害(退行性変化)、再生と修復(進行性変化)、循環障害、炎症、免疫病理、腫瘍について形態的および機能的な変化の一般的特徴、および各臓器別疾患の病態・病因の概要を理解する。 目標：①病理学的用語の意味を理解し、それを正しく使用出来るようになる。 ②臨床医学への応用ができるよう、主な病気の病態・成因について理解する。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授 業 計 画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	病理学の領域、細胞・組織の障害	到達目標:病理学とは、病因、細胞、組織の萎縮、変性、細胞死について理解する。 学習内容:病因論と障害因子によって受ける受動的な変化について学習する。(本間)					
	2	再生と修復	到達目標:再生、化生、修復と創傷治癒について理解する。 学習内容:再生、病因の侵襲に対する細胞や組織の能動的な変化について学習する。(本間)					
	3	遺伝情報と先天異常	到達目標:DNAと遺伝子、先天異常の概要を理解する。 学習内容:DNAの複製・転写・翻訳、DNAの損傷と修復、先天異常について学習する。(本間)					
	4	循環障害	到達目標:循環系、血液系、リンパ系の異常によって生ずる病変の概要を理解する。 学習内容:充血、うっ血、出血、虚血、梗塞、浮腫、ショック、高血圧について学習する。(本間)					
	5	代謝異常	到達目標:糖代謝異常、脂質代謝異常、タンパク代謝異常、カルシウム代謝異常の概要を理解する。 学習内容:代謝、代謝経路、代謝異常について学習する。(本間)					
	6	免疫とアレルギー	到達目標:アレルギー、免疫系のしくみと関連する病気について理解する。 学習内容:アレルギー、免疫系のしくみ、自己免疫疾患、免疫不全症について学習する。(本間)					
	7	炎症	到達目標:急性炎症、慢性炎症、肉芽腫性炎症の概要を理解する。 学習内容:急性炎症、慢性炎症、肉芽腫性炎症の病変とメカニズムについて学習する。(本間)					
	8	呼吸器疾患	到達目標:呼吸器疾患の症状と病態を理解する。 学習内容:呼吸器の働き、呼吸器疾患の病変とメカニズムについて学習する。(大越)					
	9	循環器疾患	到達目標:循環器疾患の症状と病態を理解する。 学習内容:循環器の働き、循環器疾患の病変とメカニズムについて学習する。(大越)					
	10	消化器疾患(1)	到達目標:消化管疾患の症状と病態を理解する。 学習内容:消化器の働き、消化管疾患の病変とメカニズムについて学習する。(大越)					
	11	消化器疾患(2)	到達目標:肝胆膵疾患の症状と病態を理解する。 学習内容:肝胆膵疾患の病変とメカニズムについて学習する。(大越)					
	12	内分泌疾患・腎疾患	到達目標:内分泌疾患・腎疾患の症状と病態を理解する。 学習内容:内分泌疾患・腎疾患の病変とメカニズムについて学習する。(大越)					
	13	脳・神経疾患	到達目標:脳・神経疾患の症状と病態を理解する。 学習内容:脳・神経疾患の病変とメカニズムについて学習する。(大越)					
	14	血液疾患・運動器疾患	到達目標:血液疾患・運動器疾患の症状と病態を理解する。 学習内容:血液疾患・運動器疾患の病変とメカニズムについて学習する。(大越)					
	15	感染と感染症	到達目標:感染症の症状と病態を理解する。 学習内容:感染症の病変とメカニズムについて学習する。(大越)					
成績評価の方法・基準	試験 100% （対面・オンライン共通）							
教科書	なるほどなっとく！ 病理学plus 病態形成の機序と各器官の疾病の特徴		小林 正伸 著			南山堂 第1版2刷(2024/1/30)		
参考図書								
教員からのメッセージ	病理学は、臨床医学を学ぶために基礎となる重要な科目です。自己学習(復習)の時間を十分にとってほしい。病院で勤務した診療放射線技師/医師がこの授業を担当します。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。							